様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　　5 月　　30 日現在

機関番号：１７６０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：22720104

研究課題名（和文）アメリカ文学における損失のモチーフと保険思想の相互関係

研究課題名（英文）Loss and Insurance in American Literature

研究代表者
下條　恵子（SHIMOJO KEIKO）
宮崎大学・教育文化学部・准教授
研究者番号：30510713

研究成果の概要（和文）：海外調査では、アメリカ植民地時代から現在に至るまでの保険産業を詳述した貴重な資料を入手。この資料の分析やフィラデルフィア、ロンドン、フィレンツェといった保険産業を歴史的に担ってきた都市での調査によって、アメリカ金融における精神風土が実は大洋横断的な性格をもったものであるという見解が裏付けられた。さらにこの「大洋横断性」は現代のアメリカ文学作品の中にも如実にあらわれていること、そしてそれは欧州―アメリカをつなぐ「大西洋横断性」に限られるものではなく、アジア（インド、中国）を到達地と設定していた大航海時代の「アジア＝ユートピア」言説まで遡り、アメリカ文学の中にアジア表象として埋め込まれていることを明らかにすることができた。これらを踏まえて執筆した原稿が博士学位請求論文の一部として結実し、さらに、2 本の研究論文が査読付き論文として学会誌に掲載されるなど、客観的評価を伴った成果物を残すことができた。また、学会での口頭発表（3 件）に加えて、研究協力者を一般向けの公開講座（2 件）の講師として招き、研究課題に沿ったテーマで語ってもらうなど、社会に開かれた対話的研究活動の場を持つこともできた。また、「損失」をモチーフにした作品内に「契約」の概念がいわば宗教的意味合いを持って描かれていることを発見し、保険などの「社会的契約」が「恩寵の契約」という契約神学の精神と一体となってアメリカの精神風土を形成して来たのではないか、という新たな研究の着想を得ることもできた。

研究成果の概要（英文）：The outcome of this three-year research project on “Loss and Insurance in American Literature” has been very successful and academically beneficial. During the first research trip to the United States, I found and purchased several rare historical documents of the history of the insurance industry in America since the Colonial period. My analysis of those documents and the field research in the meccas of the insurance business since the Age of Great Discovery—such as Philadelphia, London, and Florence—reinforced my thesis that the American sensibility in American insurance business has acquired transoceanic aspects and they are pervasively illustrated in many monumental works of American literature, which describe many layers of loss and lapse. My further study also made clear that these transoceanic aspects have been described not only as “transatlantic,” that is between Europe and the Americas, but also as resulting from “transpacific” imaginations—in the sixteenth century, Europeans happened to reach the Americas entirely by chance while they were supposed to be heading for Asia. The subsequent discourses of “Asia/Utopia” in the Age of Great Discovery have not been fully discussed in American studies, but they are fully present in American literature. My research findings came to fruition in some parts of my PhD dissertation (2011), two peer-reviewed articles (2011, 2012), and three oral presentations at literary conferences (2010, 2011, 2012). In addition, I invited renowned literature professors to two public lectures, which I hosted to introduce the topic of my current research in an open and dialogical way beyond the confines of academia (2010, 2011).

Furthermore, this three-year-long research also allowed me to come up with a new research hypothesis, that the reason descriptions of business contracts often carry a theological air in American literature might be that the idea of such contracts has been blended, together with other social and religious

contracts such as the “Mayflower Pact” and the “Contract of Grace” of the Covenant, into the very core of founding ideas of the United States.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	900,000	270,000	1170,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：英米・英語圏文学
キーワード：思想史、英米文学、社会史

１．研究開始当初の背景
本研究は、大航海時代の産物といえる「アメリカ」地域と「保険産業」に何らかの共通点が見られるのではないかという着想の下、アメリカ文学で執拗に描かれる「損失・喪失」のモチーフと同じくアメリカ文学に頻出してきたけれども殆ど論じられることのなかった「保険思想」の間に相互関係があるという仮説を設定した。これまで「資本主義」との関係や「消費社会」といったキーワードとともに論じられることの多かったアメリカ文学であるが、2008 年に始まった第 2 次世界大戦後最大規模の不況・不景気を考慮するならば、資本主義という枠組みをさらに俯瞰する視点でアメリカ文学を再考察する必要があると思われた。

２．研究の目的
本研究は、アメリカ文学の中に存在する「損失」の描写が、「損失」を前提に成立する保険制度の思想と相互関係を持つのではないかという仮定の下、両者を比較することにより、アメリカ文学研究に経済や社会思想といった学際的な視点をもたらすことを目的として進められてきた。

３．研究の方法
本研究は以下のような方法で進められてきた。1）アメリカにおける保険産業の歴史的資料収集。2）アメリカが共同体構築のモデルとした欧州都市での保険金融（特に大航海時代のもの）に関する調査・資料収集。3）収集した資料の分析　4）1）～3）を踏まえた上でのアメリカ文学作品の精読・・分析。　5）研究協力者との意見交換。6）学会での発表、論文投稿、特別講演会の開催などを通しての社会に対する研究成果の報告。

４．研究成果
2010 年度の海外調査でアメリカのフィラデルフィアおよびNYで保険に関する資料収集を行った。特にフィラデルフィアでは植民地時代から現在に至るまでのアメリカ保険産業の推移を詳述した有益な資料を入手。翌 2011 年度のロンドン（フィラデルフィアが都市建設のモデルとした）およびフィレンツェ（大航海時代に海上保険が非常に発展した都市）での現地調査に繋がった。これはアメリカ金融における精神風土が実は大洋横断的な性格をもったものであるという見解を裏付けるものだった。さらにこの「大洋横断性」は現代のアメリカ文学作品の中にも如実にあらわれていること、そしてそれは欧州―アメリカをつなぐ「大西洋横断性」である以前に、アジア（インド、中国）を到達地と設定していた大航海時代の「アジア＝ユートピア」言説として、アメリカ文学の中にアジア表象として埋め込まれていることを明らかにすることができた。
また、これらを踏まえて執筆した原稿

が博士学位請求論文の一部として結実し、さらに、2 本の研究論文が査読付き論文として学会誌に掲載されるなど、客観的評価を伴った成果物を残すことができた。また、学会での口頭発表に加えて、研究協力者を一般公開の講演会の講師として招き、研究課題に沿ったテーマで語ってもらうなど、社会に開かれた対話的研究活動の場を持つこともできた。

具体的には、3 年間の間に計 3 本の雑誌論文（うち 2 本が査読有）、学会発表 3 件、公開講座の企画運営 2 件、博士学位請求論文 1 本という成果を上げることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① 下條恵子「パーチメント・スキン―『八月の光』物語空間としてのジョーの肌」『フォークナー』、査読有、第 14 号、2012、pp.54-65

② Keiko SHIMOJO "Till Death Them Do Part: Death and Friendship in Paul Auster's *The Locked Room*" *Studies in English Literature*（日本英文学会誌）、査読有、第 52 号、2011、 pp.35-51

③ Keiko SHIMOJO "Writing in a Shipwreck: Family, Identity, and Memory in Paul Auster's *The Invention of Solitude*"『教育文化学部紀要』（宮崎大学教育文化学部紀要　人文科学）第 23 号、2010、pp.27-36

〔学会発表〕（計 3 件）

① 下條恵子「ポーとオースター：オースター作品のジャンルにおけるポーとモダニズムの関係」（シンポジウム「ポーとモダニズム」における口頭発表）2012 年 9 月 16 日　ポー学会第 5 回年次大会（京都府立大学）

② 下條恵子「パーチメント・スキン ―― ジョー・クリスマスの肌を物語のページとして読む」（シンポジウム「フォークナーと身体表象」における口頭発表）2011 年 10 月 7 日　日本ウィリアム・フォークナー協会第 14 回大会（関西学院大学）

③ 下條恵子「On the Way to Utopia—Auster 作品におけるユートピアの伝統」（シンポジウム 「アメリカ文学.—アメリカ小説の伝統とアメリカについてのヴィジョン」における口頭発表）2010 年 10 月 30 日　日本英文学会九州支部第 63 回大会（九州大学）

〔図書〕（計 0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

① 公開講座　（企画運営・通訳：下條恵子）
講師：S.ピュー教授（福岡女子大学）
題目：Getting Beyond Trauma: Haruki Mirakami's After the Quake（トラウマをこえて―村上春樹『神の子どもたちはみな踊る』を読む）
2011 年 7 月 1 日　宮崎大学
http://www.miyazaki-u.ac.jp/educul/educul.html/topics/data/f1106140.pdf#search='scott+pugh+%E5%AE%AE%E5%B4%8E%E5%A4%A7%E5%AD%A6'

② 博士学位請求論文
"Literature after the Fact: History, Identity, and Community in Paul Auster's Post-disaster Narratives" pp.1-139 福岡女子大学大学院 文学研究科英文学専攻、2011 年 3 月 23 日、博士（文学）文博第 5 号

③ 公開講座　（企画運営：下條恵子）
講師：巽孝之教授（慶應義塾大学）
題目：アメリカ南部の惑星思考―モンロ

ー・ドクトリンと文学研究
2010 年 10 月 29 日　宮崎大学
http://www.miyazaki-u.ac.jp/educul/educul.html/topics/tokubetukouen.pdf#search='%E5%B7%BD%E5%AD%9D%E4%B9%8B+%E5%AE%AE%E5%B4%8E%E5%A4%A7%E5%AD%A6'

６．研究組織
(1)研究代表者
下條　恵子（SHIMOJO KEIKO）
宮崎大学・教育文化学部・准教授
研究者番号：30510713

(2)研究分担者　なし
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
スコット・ピュー（SCOTT PUGH）
福岡女子大学・文学部・教授
研究者番号：60244795
巽　孝之（TATSUMI TAKAYUKI）
慶応義塾大学・文学部・教授
研究者番号：30155098
秋元　孝文(AKIMOTO TAKAFUMI)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：70330404
坂井　隆(SAKAI TAKASHI)
熊本県立大学・文学部・准教授
研究者番号：90438317

(4)研究協力者
クリストファー・シュライナー
（CHRISTOPHER SCHREINER）
グアム大学・人文科学部・教授
参照（グアム大学公式サイト教員紹介）：
http://www.uog.edu/dynamicdata/CLASSDEALFaculty.aspx?siteid=4&p=417